銅・アルミ市況見通し

10月

橋本アルミ取締役
橋本 健一郎氏レポート

銅

8月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で50・2％増の5万5230㌧。コロナ前の2019年8月と比較しても3・4％増加した。

品種別では銅条が1万9392㌧で同56％増、黄銅棒が1万4098㌧で同57％増、銅管が6133㌧で同199％増、黄銅条が6951㌧で同70％増、青銅板条が2081㌧で同42％増だった。

8月の銅電線出荷量は同3・1％増の4万5700㌧で、うち国内が同2・2％増、輸出が同56％増だった。

銅輸出は、電気銅が同39・2％減の4万7167㌧、銅スクラップが同35・5％減の2万1238㌧。輸出は電気銅、銅スクラップともに旺盛な内需に伴い減少した。

銅輸入は、電気銅が同57・9％減の2529㌧、銅スクラップが同199・7％減の8693㌧だった。輸入は電気銅、銅スクラップともに世界的な原料不足により減少した。

銅スクラップ景況予想

電気銅建値は一時、110万円から103万円まで急落。その後に、108万円まで回復した。このことから発生が無く、流通（一次問屋）在庫は薄い。

需要面は、前月に続き中国の部品調達の遅れに伴う自動車生産が減少傾向となっている。ただ、挽回生産に向けた在庫積み上げにより、需要は旺盛だと見ている。

仮に急落してもその価格での販売に躊躇する問屋も多く、定期で入らないメーカーが高値買いする傾向が今月も続くだろう。

LME銅・為替予想

今月も「中国の二酸化炭素排出削減措置と、これに伴う電力供給量の減少が原因となった工業用金属の需要減退懸念」と「中国不動産大手・恒大集団の経営不安問題」に左右される。

前者は、今までも環境問題では強硬な態度で臨んでおり、工業用金属の需要減退懸念は今月も続くと見込んでいる。

後者は、救済する・しないの二択ではなくマーケットの様子を見ながらの解決策を行う可能性が高い。このため上下とも動きにくい状況になるのではないかと予想している。

10月銅市況予想レンジ		
LME銅セツルメント	8500～9500ドル	弱い
電気銅建値	97～109万円	弱い
為替（1ドル）	109～111円（1カ月間TTM）	変わらず

アルミ

8月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同14・3％増の13万5353㌧となり8カ月連続で前年同月を上回った。生産量は板類が同14・4％増（8カ月連続の増加）の8万2530㌧、押出類が同14・2％増（6カ月連続のプラス）の5万2823㌧だった。

8月のアルミニウム2次合金・同合金地金生産は同20・9％増の5万5042㌧（10カ月連続の増）。出荷は同20・1％増の5万5497㌧（10カ月連続の増）だった。

輸出はアルミ新地金が同179・7％増の143㌧、アルミ2次合金が同240％増の2324㌧、アルミスクラップが同14％増の2万5㌧、アルミ缶が同4・5％増の6860㌧。

輸入はアルミ新地金が同53％増の12万9594㌧、アルミ二次合金が同124・9％増の9万1711㌧、アルミスクラップが同13・6％減の405㌧、アルミ合金スクラップが同91・2％増の64㌧だった。

アルミ輸出は、相場の急騰や外需が比較的好調なことを受けて大幅に増加した。

アルミ輸入は、輸入塊の高騰による代替需要の国内玉の不足から、大幅増となった。

アルミスクラップ景況予想

LME価格は前月一段高の2700～2900ドル台で高止まりした。このため流通（一次問屋）の在庫は玉不足が続くと見込んでいる。

需要面は前月に続き中国の部品調達の遅れからの、自動車生産が減少傾向となっている。ただ、挽回生産に向けた在庫積み上げにより需要は旺盛。このため仮に急落してもその価格での販売に躊躇する問屋も多い。定期で入らないメーカーが高値で買う傾向は今月も続くと予想している。

10月アルミ市況予想レンジ		
LMEアルミ現物後場買い	2800～2950ドル（現物後場買い）	横ばい
スクラップ	据え置きからプラス5円（前月最終価格より）	強い